

海外生活 エッセー

ニューヨーク事務所

シビれる！？テーザー銃指導者講習体験記

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 猪田 靖紀 (警視庁派遣)

→ テーザー銃とは

アメリカで生活していると、拳銃が使用された事件の報道に接する機会は少なくありませんが、警察官が被疑者を制圧する際に使用する武器は拳銃ばかりとは限りません。9月15日にもニューヨーク市内で男が肉切り包丁を振り回し非番の警察官の顔面に切り付ける事件が発生しましたが、警察官が男を取り押さる際、拳銃のほかにテーザー銃という武器が使用されました。

テーザー銃とは、テーザーインターナショナル社（以下「テーザー社」とします）が開発したスタンガン的一种です。通常のスタンガンが高電圧により相手にショック（痛み）を与えるものであるのに対し、テーザー銃は2本の電極針を相手の身体に突き刺し、そこから放たれる電気ショックで筋肉神経を麻痺させ、一時的に運動能力を失わせるものです。暴れる被疑者などを制圧する武器として、アメリカでは多くの警察で導入されています。

→ テーザー銃の威力を体験

私は昨年4月の渡米以来、日本にはないこのテーザー銃に大変興味を覚え、今回、元ロサンゼルス市警のグレッグ・マイヤー氏およびテーザー社製品の日本販売代理店である双日エアロスペース株式会社アメリカ本部のご助力を得て、2016年9月12日から13日にかけて、アリゾナ州スコッツデールにあるテーザー社本社で行われた「テーザー銃指導者講習」に特別に参加するこ



テーザー銃 X26P 型 (双日エアロスペース社作成資料より転載)

とを許可されました。

講習では座学教養や実技訓練のほか、教官が被験者にテーザー銃を撃ち込み、参加者がその効果を確認する“Exposure”と呼ばれる訓練が行われました。私はテーザー銃の実際の威力を確認したく、被験者を志願しましたが（同訓練は志願者がいない場合には行われません）、想像をはるかに超える衝撃で、電気ショックを受けている間（5秒間）

は全く体を動かすことができませんでした。訓練後、教官や参加者から「よくやった」と暖かい拍手で迎えられました。



Exposure 訓練の様子 マットに横たわっているのは筆者（双日エアロスペース社撮影）

→ 治安に携わる者の「熱い思い」

講習にはテーザー社の社員数名も参加していました。これは、新入社員などが自社製品の理解を深めるとともに、実際の使用者である参加者から製品に関する現場の実情を聞き、以後の製品開発に活かすことを目的に毎回行っているとの説明がありました。

講習の最後に教官からの「テーザー社は今後も警察官が無事に一日の仕事を終え、安全に帰宅できるのを可能にする製品の開発に取り組んでいく」という言葉に、アメリカの治安に裏方として携わる企業の熱い思いを感じることができました。

日本の警察官として、引き続きアメリカの警察関係者と、この「熱い思い」を共有できるような機会を数多く持っていきたいと思います。